

和書門

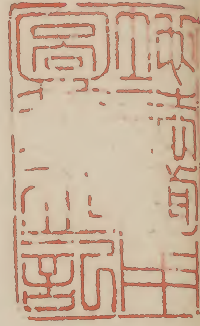
廿七

和書門	
三六九四	類
三八二四	函
三八二四	架
三八二四	冊

內閣文庫	
三六九四	和書
三八二四	函
三八二四	架
三八二四	冊

內閣文庫	
番號	和 36694
冊數	38 (28)
函號	158 1





○赤穂義士書翰

附義士分限 梶川氏記





夜鶴集卷之廿七

近藤又兵衛武群輯録

赤穂義士書翰

此書ノ一跋ニクワシ又附録ノ義士分限及権川氏ノ記凡ニ記セシハ小祿ノ士ノ志且ツ淺野家ノ亡タルコトヲ知ルニ且ガ故ニ原本一卷ノマ、ヲ記ス

一 筆波破上女兼高皮ノ正任中ノ内國為ノ敵水原内相ニ
別与政威知知ノ付度一月ノ内ノ敵ヲ捕知
同志ノ流立流流ノ正任中ノ内國為ノ敵水原内相ニ
由志ノ被取度ノ内相志ノ思立ノ内國為ノ敵水原内相ニ
先相ノ内相志ノ思立ノ内國為ノ敵水原内相ニ
為一人ノ内相志ノ思立ノ内國為ノ敵水原内相ニ

医及て信奉之管之能に付度と成る事なり我輩は
其の如く此の度却るに能く成る事なり我輩は
之れを以て其の如く此の度却るに能く成る事なり
其の如く此の度却るに能く成る事なり我輩は
其の如く此の度却るに能く成る事なり我輩は
其の如く此の度却るに能く成る事なり我輩は
其の如く此の度却るに能く成る事なり我輩は
其の如く此の度却るに能く成る事なり我輩は

八月六日

大石内膳助

寺井玄溪稿

二条

一 筆下破上云 諸国に高き事なり 在りて家より
往事とも只此の一言を光り
一 高代いりり 宗室成池田氏は 宗室なり
池田氏は 宗室なり 宗室なり 宗室なり
宗室なり 宗室なり 宗室なり 宗室なり
宗室なり 宗室なり 宗室なり 宗室なり
宗室なり 宗室なり 宗室なり 宗室なり
宗室なり 宗室なり 宗室なり 宗室なり
宗室なり 宗室なり 宗室なり 宗室なり

不承り

一 在るに後古友たよるに其の如何に海にても

一 是く入込の如く其の如く去年より其の如く

一 其の如く其の如く其の如く其の如く

一 其の如く其の如く其の如く其の如く

一 其の如く其の如く其の如く其の如く

一 其の如く其の如く其の如く其の如く

一 其の如く其の如く其の如く其の如く

一 其の如く其の如く其の如く其の如く

前後の考と其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く

其の如く

十月

其の如く

一 筆今其の如く其の如く其の如く其の如く
同志其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

後由安土へお見え申す遊さりののち安土を遊ばせ
 進みられた事一宮お遊ばし時元内五五五内庶弟
 平地は為共の時書付進一宮以上
 又申す時物とも申すは山座のついでに申すは
 多々しとの事申すは山座のついでに申すは

東組 表門より

- 陰 行園源左衛門 三十一家
- 同 留森助左衛門 四十四家
- 同 南林 唯七 陸軍 三十一家

場角

- 長分 奥田孫左衛門 三十一家
- 陰 久田右衛門 助左衛門 三十一家
- 同 膳田新左衛門 南光 三十一家
- 同 吉田次左衛門 魚負 三十一家
- 同 長崎半左衛門 常樹 三十一家
- 同 山崎半左衛門 秀富 三十一家
- 同 三村次左衛門 包帯 三十一家
- 同 早水左衛門 瑞光 三十一家
- 同 津浦左衛門 則休 三十一家
- 陸 吉原左衛門 教兼 三十一家

長月 右多涉衣 志能 二十案
 同 近松劫六 行重 二十案
 港 同 十次而 光具 二十案
 港 大石内 危助 良雄 二十案
 同 系 勘 元辰 二十案
 港 同 院之 美 西明 二十案
 港 堀 院之 瑞 全九 七十七案
 同 村 院之 瑞 全九 六十一案
 同 国 野 全 瑞 包秀 二十案
 同 横 河 劫 年 宗 利 二十案

表門月

人教大武指他人家最良人持系

西組表門月

表門月全人

同 貝 院之 瑞 友 信 二十案
 港 磯 貝 十 市 左 馬 西 久 二十八案
 港 堀 院之 瑞 全 瑞 二十案
 港 倉 院之 瑞 助 瑞 幸 二十案
 同 堀 院之 瑞 次 瑞 二十案
 港 堀 院之 瑞 院 瑞 二十案
 港 堀 院之 瑞 院 瑞 二十案
 港 堀 院之 瑞 院 瑞 二十案

毛利小卒太 元義 二十案
 時 七 年 三 月 三 日

首を十次断り又指をせめて而白少神を度み
春月の月におそふ物にあふ月の為よさらしく
春月の昔足程よん屯中の紙筋ひかき上野女友の
あふしあてはしむる人の人討ちか付體中し
ち袋にのりたはせもも産紙の爲やして情面の老老
を多く取持あふたし情をいしり 此書は一人も
その内野長尾の所あり上野女友討ちか付を
この声よちやわらも戸を引まわしあふ書者
その書の上野女友討ちか付をいしり
春月の月におそふ物にあふ月の為よさらしく

人あよむ物 相改お入りの教に相違集の上表
つくり退か物 此の教の月津を負か一人も
その内野長尾の所あり上野女友討ちか付をいしり

一 秋もも五を言を教に以上書をいしりあ徳改持事との
春のつくり入の者まはるあよん屯中の紙筋ひかき上野女友の
の内野もも七をいしりあ徳改持事との
お徳の

一 川拂の別へ未透し照をいしりあ徳改持事との
並南をいしり上野女友討ちか付をいしり
秋もも七をいしりあ徳改持事との

而及山内在中実を以て帝及りし事也と云ふも麻上りし事也と云ふ新天不後

内中内中深き仙石仙石若くは陸奥津島等

水野山左衛門孫云任官之任國之政事は進言仙石若くは

中内親正中内親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

右内親正内親正孫云任官之任國之政事は進言仙石若くは

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

任官之任國之政事は進言仙石若くは陸奥津島等

持事持事と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

福中福中の仙石若くは陸奥津島等

中内親正中内親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

下中内親正下中内親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

内中親正内中親正と云ふ事は山左衛門と云ふ事は中内親正

中絶してこそ推察する所なり

一 自負の者も近松の横河の年あつて中絶して
二 殿との初めも誤る所あり 殿中も亦誤り
三 中絶の初めも誤る所あり 殿中も亦誤り
車あつては中絶の年あつては中絶の年あつては
中絶の年あつては中絶の年あつては

一 怪談の素より入の者の内は根を断ちては
の根を断ちては中絶の年あつては
を断ちては中絶の年あつては
て断ちては中絶の年あつては

中絶の年あつては中絶の年あつては
中絶の年あつては中絶の年あつては
中絶の年あつては中絶の年あつては
中絶の年あつては中絶の年あつては

一 中絶の年あつては中絶の年あつては
中絶の年あつては中絶の年あつては
中絶の年あつては中絶の年あつては
中絶の年あつては中絶の年あつては

此月廿二日午時分らむと先月廿四日迄の御事
無之に御座り候事
此月廿三日の夜申時迄の御事
此月廿四日の夜申時迄の御事
此月廿五日の夜申時迄の御事
此月廿六日の夜申時迄の御事
此月廿七日の夜申時迄の御事
此月廿八日の夜申時迄の御事
此月廿九日の夜申時迄の御事
此月三十日の夜申時迄の御事

- 一 初申の御事
一 廿八日の御事
一 廿九日の御事
一 三十日の御事

義士分限

少石百石

桃事世孫

良雅場男

大石内務助良雅

少石百石

孫代

大石 主税良全

二石百石

足輝氏

吉田忠左衛門 兼亮

二石百石

側用人

原 惣右衛門 元辰

少石百石

大目付

所長源次郎 高房

百石指石

系長扇安
南守左

正明備前

間瀬久吉 正明

間瀬涼九郎 正辰

小野守十内 秀和

秀和養子之志雁子
小野守幸在馬秀富

百石 馬廻

間 吉之侍 光延

光延 碓男

間 重次而 光貞

同次男

間 新六 光風

保人
中堂又而名
家より

百石拾石 側用人

磯貝十郎在馬 正久

二百石 江戸前多辰

堀部孫多清 金丸

金丸養子

堀部安之助 貞庸

百石拾石 馬廻

近松勘六 行重

百石 侍書

富森勘在馬 西因

百石 四條馬及

堀田又三郎 高教

百石拾石 馬廻

早外友在馬 満光

百石 同

赤垣源亮 重賢

百石 江戸侍

奥田孫左衛門 董盛

董盛養子 近松行重

奥田貞吉 行高

百石拾石 馬廻

奥田之助在馬 助義

百石 同

大石頼左衛門 徳隆

百石 左衛門

中村勘助 四房

百石 馬廻

百石 日

百石 日

百石

百石 辰田重隆

百石 人持持 通智

百石 人持持 為吉

百石 人持持 廣百壽

菅谷半之丞 西利

千馬三郎 光忠

市村長右衛門 貞行

父故 長野 包秀

不破 長右衛門 正種

大高 源吉 忠雄

貝原 孫左衛門 友信

村松 長右衛門 秀吉

秀吉 婿男 村松 三吉 三吉

百石 人持持 丸鹿 重隆

百石 人持持 通智

百石 人持持 日

百石 馬廻

百石 人持持 通智

百石 馬廻

百石 人持持 全重

百石 人持持

百石 人持持 佐月

百石 人持持 佐士

長崎 半右衛門 常將

松野 十平次 為房

吉田 澤右衛門 兼定

膳田 新左衛門 貞亮

南林 唯七 隆長

全稿 傳助 茂幸

前原 伴助 宗房

父長助 長原 重七 教兼

芽野 和助 常成

横川 幼平 宗利

全名友二人扶持 徳目付

神居与右而別休

志願人徳目付二村次郎重也也奉

以上は拾六人

義士同盟

足配

奉儀奉重門信行

馬廻先登

菊野三平

同此節別休重也橋本重兵衛橋本重兵衛

病死

大沢長助

同

長生故令重也

二月十日

一 今朝の時刻に通登 城下居敷に奉り掛置

今日所候に奉り掛置は上り候も下り候も

後申す候に候も申す候に候も申す候に候も

より候に候も申す候に候も申す候に候も

申す候に候も申す候に候も申す候に候も

申す候に候も申す候に候も申す候に候も

申す候に候も申す候に候も申す候に候も

申す候に候も申す候に候も申す候に候も

申す候に候も申す候に候も申す候に候も

諸事官位入中内近殿おかしく申す
海りねえ後沖白書院の言をききて吉良殿
沖白書院の言より申す申す又言をき
ゆきき吉良殿を申す申す申すの
あてけりて吉良殿の言をききて吉良殿
の言の降子あきしめて申す申す申すの
言をきて角柱よりお七の言も申す申す
申すより申す申す申す申す申すの
言をきくおかしき言をききて申す申す
吉良殿の言よりけりて申す申す申す

言のきけ切替申す

言のきき申す申す申す申す申すの
申す切替申す申す申す申す申すの

申す申す申す申す申す申す申すの
上野田友と申す申す申す申す申す
又切替申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申すの
申す申す申す申す申す申す申すの
申す申す申す申す申す申す申すの

吉良殿の言をききて申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申すの

中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳
中乳中と退産をまじりて居りて中乳

与義士書翰

右と或家々日記中より抄出せるものと云義士清
江源より傳せし西田吉右衛門氏の花地権川氏今
の或百石外れを為付し七百石ありしと云ん也

義士書翰ト云ヨリ以下堤氏所藏之原本一卷也

